

Weekly コラム

令和 5 年 9 月 26 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

FRBの失敗？

今年3月にシリコンバレー銀行が破たんしましたが、その資金の流出のスピードが前代未聞でした。2023年2月末に1650億ドルあった預金の9割がわずか2日で流出する衝撃的な取り付けになったのです。

ロシア・ウクライナ問題を発端とした原油価格の上昇、穀物やエネルギー供給の不安定化により、インフレが進行し、世界各国でインフレを抑えるために急速に利上げを行ないました。今回破たんしたシリコンバレー銀行は債権で預金を運用していたため、急速な利上げに伴い、債券価格が大きく下落し、多くの含み損を抱える形となりました。多額の含み損があるとわかった預金者は預金を引き出そうとしますので、2日で預金の9割が流出することになったのです。シリコンバレー銀行の破たんは同行特有の問題もあったかもしれませんが、これは多くの米銀に共通する問題も内包していると考えられます。スタンフォード大学の試算によりますと、米銀全体での含み損は2兆ドルにも達するとのことでした。

米国では連邦預金保険会社(FDIC)による預金保護、いわゆる日本でいうところのペイオフですが、上限は25万ドル(3300万円)であり、日本と比べれば多いように思うかもしれませんが、法人の預金口座の上限も同じように25万ドルなのです。ですので、もしこの預金保護の対象外の預金の半分が流出した場合には186行の銀行が破たんするのではという試算もあるとのことでした。

そして、5月初めのファーストリパブリック銀行の破たん。まだまだ破たんが続くかもしれません。FRBの今後の金融政策のかじ取りが非常に難しく、また大変になってきます。インフレを抑えようとして金利を上げれば、今回のように銀行の破たんが続き、景気悪化から金利を下げないといけなくなります。そうなれば、インフレを助長することになり、また金利を上げないと物価の上昇を抑えられず、景気が悪化することになります。

景気悪化の抑制、インフレの抑制、金融システムの安定化というトリレンマにFRBは直面していると考えられます。このバランスを考えて金融政策をとっていかないと世界はとんでもない不況に陥る可能性も考えられます。ただ、今回の問題は、FRBがインフレを過小評価して、利上げの時期を見誤ったからだともいわれており、FRB自身にも今回の銀行破たんの責任があるのではないのでしょうか。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。